

第1分科会 技術とものづくりⅠ

相模原市立相模丘中学校
教諭 上野 勝巳

公開授業

題材名「身の回りを整理するものを作ろう」
長岡市立東北中学校 教諭 川口 隼児

生徒一人ひとりが身の回りを整理するものを構想から考え製作していく題材でした。公開授業では、製作に使う材料や部品を強度や大きさ、加工方法などを考えて自分たちで選び、構想計画書を記入していく授業でした。会場には、様々な材料や部品が用意されており、値段も表示されていて、生徒たちは夢中になって材料を選んでいました。これだけの材料を用意して生徒に選ばせるには、構想段階での相当な準備が必要だと感じました。とても面白い授業でした。

提案発表①

「多様な材料から使用目的、
使用条件に適した材料を選択し
設計・製作する学習指導の工夫」
小千谷市立小千谷中学校 教諭 角谷 文昭

公開授業と同様に材料選びを行っている学校の発表でした。このような授業を行うことで生徒の適切な製品や材料を選択する意思決定力を育てられるという発表でした。会場では、生徒一人ひとりの見積り金額が異なる点や作るものが異なるので生徒の進捗状況の違いなど様々な質問がでました。

提案発表②

「よりよい生活者をはぐくむ
学習指導の在り方」
坂東市立南中学校 教諭 横尾 守也

基礎的な知識と技能を習得し、根拠を示して判断する意思決定場面を多く取り入れることで、使用条件に適した構想がまとめられるであろうという発表でした。VTRなどを多く取り入れて生徒の理解を図っていました。

提案発表③

「学ぶことの意義と大切さを感じさせる指導」
台東区立柏葉中学校 教諭 小森 信行

技術のすばらしさを感じさせる教材や学習プリントの工夫を行い、生徒に技術を学ぶことの意義を教える研究を行っていました。

第2分科会 技術とものづくりⅡ

横浜市立上郷中学校
教諭 岩田 明正

公開授業

題材名「生活をよりよくする
照明器具を製作しよう」
新潟市立小新中学校 教諭 水野 修

電気エネルギー変換の学習の一環として、生徒たちが製作した白熱電球、蛍光灯、発光ダイオードを利用した作品を、1ヶ月間実際に家庭で使用し、よりよい作品に仕上げるために振り返りを行いました。各グループごとにコードの長さや、照度不足などの問題点を出し合い、改善に向けての方法を話し合いました。

提案発表①

「学習の振り返りを重視した学習指導の工夫」
新潟市立木崎中学校 教諭 内藤 達彦

製作した作品の効果的な振り返り学習について、作品を実際に使用し、改善点を話し合い、今後の授業展開につなげていく取組が発表されました。作品改良までの授業時間が確保しづらい事、改善点を話し合う際の生徒への支援方法直、課題点も含め活発な意見交換が行われました。

提案発表②

「魅力あるわかる授業づくりをめざして」
横浜市立港中学校 教諭 木村 奨

横浜市で行われているロボット競技会が、生徒のロボット製作へどのような効果を及ぼしているかをアンケートのデータをもとに、発表されました。意欲の向上、興味・関心の維持という点で、競技会は大きな役割を果たしている反面、達成感を感じられない生徒もあり、競技会の形態も含め検討が必要ではないかという意見が出されました。

提案発表③

「感じ取り、体験して、
生きる力が育つ授業づくり」
大月市立猿橋中学校 教諭 沢登 守

農業を取り巻く問題、環境問題をふまえ、様々な取組を積極的に取り入れた栽培実習についての発表でした。コカブや二十日大根を用い、手軽な実習を通して、生徒の意欲を向上させる授業の紹介や、ペットボトルや、木くずを利用した環境教育につながる栽培授業の実践が紹介されました。

第3分科会 情報とコンピュータ I

相模原市立大野北中学校

教諭 北川 タ

公開授業

題材名「情報伝達の安全性とマナーを考えよう」

新潟市立黒崎中学校 教諭 坂中 大勉

電気スタンドのシェードに利用する画像の作成を通し、情報モラルや著作権、個人情報に関わる諸問題を考えさせるため、視聴覚機器や小グループ活動を有効に利用した授業を公開して頂きました。



提案発表①

著作権や個人情報を尊重し、情報収集・判断・処理ができる生徒を育てる学習指導の工夫
新潟市立曾野木中学校 教諭 遠藤 寿紀

意志決定力を育成し、それらを自己の生活に生かすために情報通信ネットワークを安全に利用する能力を向上させるため、小グループでの活動やひと・こと・ものの相互交流、他教科との連携により著作権や個人情報の保護に関する意識が向上した成果の発表が行われました。

提案発表②

授業の充実をめざした学習評価の改善
～情報モラルの学習を通して～

群馬県高山村立高山中学校 教諭 下飯 英樹

評価と指導法の改善から基礎と基本を生徒に身に付けさせることに繋がるという視点から、授業のねらいや要点を明確化し、自己評価や座席表の活用、評価計画の改善を行った成果の発表が行われた。

提案発表③

生徒の学びを高め、
生活する力を伸ばす指導法の研究
埼玉県深谷市立岡部中学校 教諭 持田 栄

IT教習所カリキュラムという学習内容を明確にしたカリキュラムにより、生徒は身についた力を的確に把握できるであろうという仮説のもとにした提案でした。年間指導計画、評価計画の作成、生徒用学習案内の作成、指導法の研究とその成果について発表が行われました。

第5分科会 生活の自立と衣食住 I

横須賀市立大矢部中学校

教諭 堀江 まなみ

公開授業

題材名「食生活を見つめる視点を育てる
学習指導の工夫」

阿賀野市立水原中学校 教諭 菅野 明子

食生活を見つめる視点として、「健康・栄養」「安全・衛生」「環境」をキーワードとして決め、各授業の中で、常にキーワードを意識させながら授業展開を行っていた。また、地域の方に各班1人ずつ「食のアドバイザー」を依頼し、



交流活動を通して実践をイメージした計画立案を行っていたのが、大変参考になる授業発表でした。

提案発表①

題材名「自らの生活を主体的に工夫し
創造する生徒の育成と、
生きる力を育む学習活動とその支援」
横須賀市立鷹取中学校 教諭 松田 智恵

アンケート等による現状分析の結果から、経験不足と体験的学習の重要性が指摘された。そこで、小学校の学びと中学校の学習内容を整理し、より効果的に実践するための1時間で可能な調理実習の提案がなされた。実際の授業で生かせる多くの資料や体験で得た生徒の活動結果が報告された。

提案発表②

題材名「心地よく安全な住まい方を
工夫できる生徒の育成」
沼田市立南沼田中学校 教諭 星野 しのぶ
沼田市立沼田中学校 教諭 森 峰子
みなみかみ町立月夜野中学校
教諭 中島 美保子

各授業展開の中で、体験的な学習活動を通して、生活に繋がる学びの工夫に重点を置いた授業研究を行っていた。また、班で意見交換学習を行う事で、言葉によるより一層の学習の振り返りと学びの定着の工夫があった。

**第7分科会
家族と家庭生活Ⅰ**

相模原市立旭中学校
教諭 加藤 よし江

公開授業

題材名「私たちの消費生活と環境」
長岡市立南中学校 教諭 山田 芳子

学習課題「これからの私たちは、どんな商品をどのように選んでいったらいいだろうか」の元買い物学習をし、購入してきた商品を紹介しながら、環境にも配慮した選択・購入・消費について考えさせる授業が行われた。8班それぞれ趣向を凝らした発表があり、内容豊富な授業だった。

提案発表①

見附市立見附中学校 教諭 平方 昭子

「消費生活の学習を通して、自ら考え実践する力を育む題材の開発と学習指導の工夫」の研究テーマに基づき、生徒の実態調査から期待する生徒の姿「課題設定力、知識・技術活用力、意思決定力」を育てると言う思いから授業構想を立て、実践し、成果として「生徒自身が生活を振り返る機会となり、家族・家庭と関わりを持ちながら継続的に取り組みたい」とまとめた。

提案発表[千葉県]②

市川市立第三中学校 教諭 小川 啓子

生徒自身の成長を振り返る中で保育交流に向けた課題を見つけ、調べたり実践したりする活動に地域や幼児とのふれあいを位置づけ、家庭生活を取り巻く環境が変化しても、人との関わりを大切に生活できる生徒の育成を目指して研究が進められた。

保育交流では、「1回目は訪問し、絵本の読み聞かせを実施、マスコットを渡す」と言う流れで実施。同じ幼児とふれあうことで繋がりがもて、実りあるものとなった。

市川市では25年前から保育交流の授業を実施し、成果をあげている。

提案発表③

さいたま市立泰平中学校 教諭 萩原 多恵

第46回大会の提案者で3年間の報告と今年の取り組みについて報告がされた。

「人とのかかわり」を大事にし、ひとり一人の学びを高め、生活する力を伸ばす」という思いが授業改善に結びつき、さまざまな授業の取り組みが報告された。

大会後も自主研修会や実技研修会を実施し、研究の向上に努めている。

**第8分科会
家族と家庭生活Ⅱ**

相模原市立相原中学校
教諭 林 由美子

公開授業

題材名「子どもが育つよりよい生活環境の実現を目指して～今、わたしたちにできること～」

新潟市立関屋中学校 教諭 椎井 由加利

子どもが育つ「よりよい生活環境」を目指して、自分達が暮らす地域の様々な課題について、解決方法を対象となる地域の人々との意見交換を通して探り、地域発信の準備を行う、という授業であった。地域の方や専門家などがゲストティーチャーという形で授業に参加する形態は珍しいものではないが、ゲストティーチャーと共に学んだ成果を紙上发表し、各家庭や地域（回覧板等）に配布するところまで指導計画に組み込んであるところに工夫があり、示唆に富む内容であった。

提案発表①

**「実践的・体験的な学習を通して、
問題解決能力を高める指導の工夫」**

佐野市立田沼東中学校 教諭 岡本 博美

家族と家庭生活の内容において、個々の生活の中で生じる諸問題に対し人とのかかわりの中から具体的な解決策を導き出す能力と態度の育成が重要と考え、問題解決的な学習を3年間を見通して意図的・系統的に位置づけた指導計画を作成した。その中に『家族とのかかわり』の視点を加え、3年間を通して、家族や家庭を意識した授業を展開する内容とした点が特色である。

提案発表②

**「感じとり、体験して、
生きる力が育つ授業づくり」**

南アルプス市立若草中学校
教諭 遠藤 明子

「幼児とのふれあい学習において、実践的・体験的な学習の場を効果的に設定すれば、幼児とのよりよく関わる力が育つだろう」という研究仮説を設定し、保育所訪問やふれあい交流会などを取り入れた指導計画を作成した。複数回の体験学習の効果は大きいものがあるが、時間の確保や地域の保健福祉課・保育所等の協力など課題も少なくはない。